

大地の声

2025

June

6

JA CHIBATOUKATSU



野田市で養鶏業を営む和田さんは
飼料にこだわり変わらぬ味を届け続けています

詳しくは16ページをご覧ください

ホームページアドレス▶<http://www.ja-chibatoukatu.or.jp/>

行われました

4/22

蔬菜組合
岡田支部
岡田集出荷場



～トマト～

生産者 14 名、市場関係者 4 名、東葛飾農業事務所が出席しました。

主要産地の傾向や推移などの情報を共有したのち、市場関係者らが中心となり現品を手にて色味や形状の確認を行いました。

遠郷功支部長は「規格統一した中で、安定生産できるように一丸となって取り組みましょう」と挨拶しました。

5/9

北部連合組合
北部連合
集出荷場

～トマト、糸みつば、ほうれん草～

生産者 12 名、市場関係者 3 名が出席しました。

品目ごとの販売情勢や各産地の傾向などの説明があったあと、それぞれの現品査定をしました。

出荷規格を確認しながら、安定した品質と数量の維持に向けて情報共有を行いました。

張ヶ谷喜久夫組合長は「品目ごとに出荷基準を厳守して、安定供給に繋げていきたい」と挨拶しました。



5/9

大山出荷組合
野田市内



～キャベツ～

生産者 10 名、市場関係者 3 名が出席しました。

参加者は持ち寄ったキャベツを確認しながら、重さや葉の状態、出荷のタイミングなどを確認しました。

定植時期の乾燥が心配されましたが、影響も無く生育は順調。7月まで出荷が続きます。

沢田昇組合長は「農薬などきちんと管理をして、引き続き安全安心のキャベツを出荷したい」と挨拶しました。

査定会が

5/13
蔬菜組合
岡田支部
岡田集出荷場

～人参～

生産者 10 名、市場関係者 2 名、東葛飾農業事務所が出席しました。

主要産地の情勢などの報告がされたあと、参加者はそれぞれ現品を手に取り市場関係者と品質や等級について話し合いました。

遠郷功支部長は「等級規格選別に注意し、更なる秀品率の向上を目指していきましょう」と挨拶しました。



5/13
印内
出荷組合
船橋市内

～枝豆～

生産者 15 名、市場関係者 2 名、東葛飾農業事務所、船橋市農業センターが出席しました。

参加者は出荷がピークとなる父の日に向け、市場関係者から他産地の変化や出荷傾向などの報告を受けるとともに、同組合の今年の生育状況など情報共有をしました。

田中裕之組合長は「需要が高くなる父の日に向け、管理に気を付けて出荷していきたい」と挨拶しました。



5/16
川間園芸部
野田地区
経済センター

～枝豆～

生産者 17 名、市場関係者 2 名、東葛飾農業事務所が出席しました。

市場関係者から情勢の報告があったあと、参加者は有利販売に繋がる見せ方などを確認しながら枝切りから袋詰めを行い、本格出荷に向けて荷姿や量目の統一を図りました。

遠藤一彦部長は「天候不順のなか、ようやく出荷が出来るようになった。査定会で得たものを持ち帰り有利販売に繋げて欲しい」と挨拶しました。



品種の比較検討



— JA ちば東葛ふたば青果物出荷連合会ねぎ部会



それぞれ確認する参加者ら

JA ちば東葛ふたば青果物出荷連合会ねぎ部会は4月22日、柏市内にある細谷悦喜さんのほ場で現地検討会を行い、4名が参加しました。

この日は、東葛飾農業事務所の職員や種苗会社の担当者が同席し、柏市や我孫子市で栽培に適した品種を検討するため、試験的に栽培をした3品種の成長具合などを見学。実際に栽培をした細谷さんと日暮悟さんから状況を確認しながら、ねぎの安定的な生産に向けた情報交換をしました。

そのほか、作業の省力化に向けた取り組みの一つとして農業用ドローンによる散布作業の実演が行われ、時間や費用面、効果などの質問がされました。

今年度の短期大学が開校— JA ちば東葛野田地区女性部



JA ちば東葛野田地区女性部は4月23日、野田地区多目的ホールで女性短期大学開校式と第1回講座を開催し、27名が参加しました。

今回は、家の光でも掲載された「手ぬぐい1枚でできる！さっとカブリーナ」の作成に挑戦。石山美代子部長を講師に、作り方を見ながらチクチクと縫い進め、簡単に被ることが出来る「カブリーナ」を完成させました。

参加者からは「簡単に被ることが出来て楽！」「自分で調整が出来てズレないから便利」など完成品を手に話を弾ませました。



完成品を被りニコニコ！

出来映えを報告— JA ちば東葛西船橋葉物共販組合、JA ちば東葛西船橋枝豆研究会



写真左より梨本統括理事、石井会長、松戸市長、藤田組合長、矢口常務

JA ちば東葛西船橋葉物共販組合・藤田均組合長、JA ちば東葛西船橋枝豆研究会・石井俊介会長と梨本哲也船橋市統括理事、矢口勇二常務らJA関係者は4月28日、市のブランド野菜である小松菜と枝豆の今年の出来映えを報告するため、松戸徹船橋市長を表敬訪問しました。

表敬訪問では作況を報告するとともに、松戸市長をはじめとする参加者に「茹でた枝豆」[小松菜バウムクーヘン] [ジェラート]を試食いただきました。

松戸市長から「農業は船橋市の魅力の一つ。子どもたちにも市内産農産物が浸透し、若手生産者の意欲向上にも繋がっている」と話しました。

黄金色の絨毯広がる—野田市

今年も黄金色に実った麦の収穫が野田市内で始まりました。

5月20日には農事組合法人野田市東部営農組合、(株)野田自然共生ファームが、21日には穂結び合同会社が大きく実った六条大麦(カシマムギ)の刈り取りを開始。数日をかけて計30haを刈り取りました。

6月上旬からは農事組合法人野田市東部営農組合、(株)野田自然共生ファームに加え、農事組合法人小山営農組合、農事組合法人きまがせが小麦(さとのそら)の収穫を行います。

令和6年度は大麦約36ha、小麦約173haと県内でも最大の規模を誇り、収穫した大麦は麦茶として、小麦はうどんなどの原材料として加工されます。



収穫の様子

今年も出荷の季節を迎えました—JA

田植えシーズンを迎えた4月下旬から5月中旬にかけ、当JA水稲育苗センターで水稲苗約12,000枚の出荷を行いました。

JA職員や農事組合法人野田市東部営農組合の生産者が連携して温度や水の管理を行い、3月の浸種作業から、催芽・播種・緑化・硬化の作業を経て無事に出荷を迎えました。

天候の影響を受けないように管理には細心の注意が必要でしたが、生育は順調に進み皆さんの元へお届けすることが出来ました。



野田市内で長く続く活動—野田市東部ふるさと保全会



野田市東部ふるさと保全会は5月7日、野田市目吹で近隣の小中学生を対象とした田植えの授業を行いました。

野田市の東部小学校・柳沢小学校両校の5年生と、東部中学校の1年生の生徒合計116名が参加し、同保全会の会員や東葛北部土地改良区の職員、学校の先生の指導を受けながら15aの水田に苗を植えました。

この活動は、地域の子どもたちに近くにある田んぼや畑を学びの場として農や食について学んでもらおう

と始まり、市内でも長く続く活動として今年で25年を迎えます。同保全会の深津憲一会長は「実際に体験して、作る大切さを学んで欲しい」と挨拶しました。

新入職員研修 ~力を合わせて農業体験!~



14名の新入職員が農業体験を通して生産者さんとの交流を深め、農協職員としての意識を高めました。

—田植え研修—

5月8日、農事組合法人野田市東部営農組合が管理する水田(野田市目吹)で稲作研修を行いました。

田んぼに入るのも初めての職員がいる中、手植えに挑戦!お米のことや植え方の説明を受けたあと、一列に並び10aの水田に苗を植え終えました。



—6次化研修—

5月19日、西船橋葉物共販組合の緒方理公さんのほ場で6次化商品用小松菜の収穫を行いました。

緒方さんから作業の手順を教えてもらった後、4つの班に分かれた職員は、4時間ほどかけて100ケース(1,000kg相当)を刈り取りました。

